

平成23年度に建設工事で発生した事故事例（流出による事故）

事故概要：

根固部のコンクリート打設を実施したところ、床面からの少量の湧水にコンクリートのアクが混入し、締切により水量の少なくなった河川下流部に流入したため水質が強アルカリ性となり、魚類がへい死した。

事故原因：

工事で発生する濁水等は直接河川に流れないように対処していたが、床面からの少量の湧水に対する対策が講じられていなかった

改善対策：

- ・湧水を排除するため排水ポンプによる排水を徹底
- ・万が一を想定し沈殿槽を設置する

現場状況



改善対策



分類：コンクリート打設工、その他

被害状況：魚類10匹へい死

平成30年度に建設工事で発生した事件事例（工具・資材による事故）

【事故概要】

バックホウ(0.45m³)のバケット反転作業でバケットをアームから取り外すために、鉄ピンを両手で持ってバケットピンを押し込んでバケットボスから取り外そうとしていた。ピンが外れないので強くたたいた時にピンが外れ、勢い余ってバケットボスと鉄ピンの間に右手小指の先端を挟み負傷した。

【事故原因】

- ・「慣れた作業の繰り返し」との意識があり、特に安全に注意を払うことなく作業を行った
- ・バケットピンを抜く作業の専用工具はなく、危険な作業との認識も無かったことから、作業手順が徹底されていなかった

【改善対策】

- ・慣れた作業に潜む危険性を見落とさないよう、現場状況確認後に具体的なKYミーティングを実施する
- ・鉄ピンの途中に鋸状の部材を付けた専用工具を製作し、この工具を使用する作業手順を徹底する



今回の事故を契機に製作した専用工具

【分類】コンクリート打設、その他

【被害状況】右第5指挫傷・末節骨骨折（約1ヶ月の加療）

令和2年度に建設工事で発生した事件事例（建設機械事故）

【事故概要】

コンクリート打設中に、コンクリートポンプ車の油圧ホースが破裂したことにより、ポンプ車のブームが下に落ち、ブームが作業員の背中にあたり負傷した

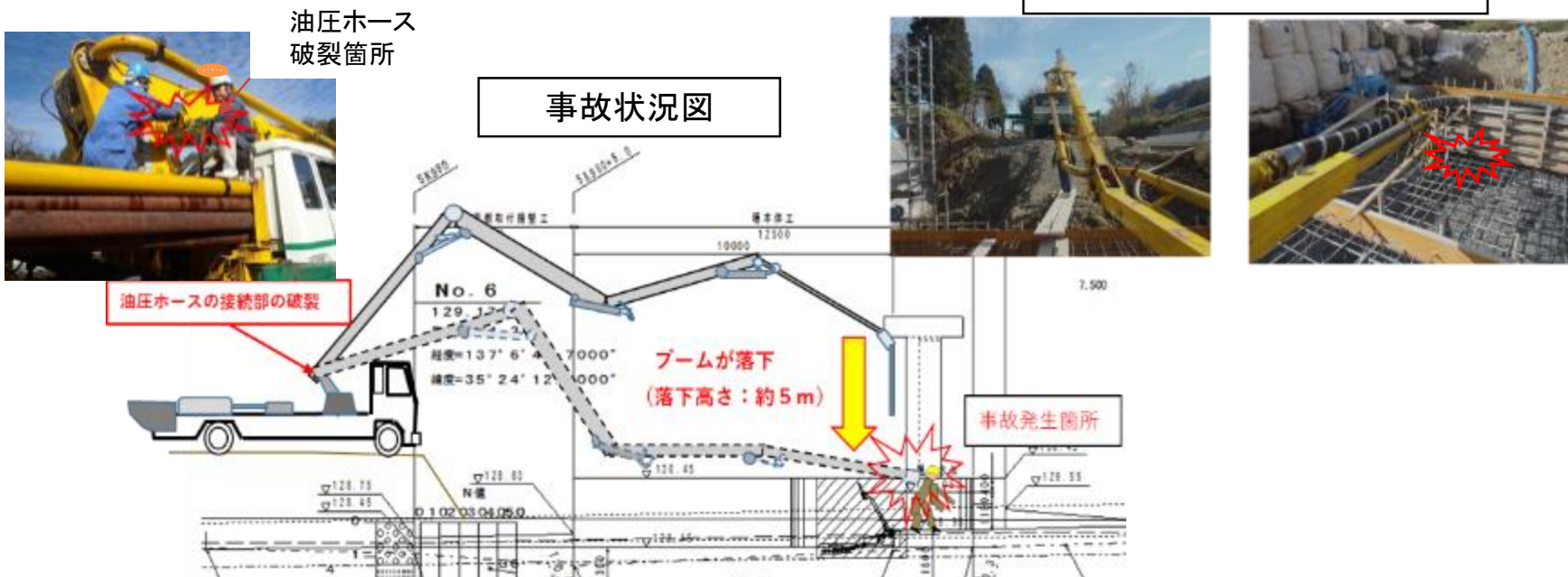
【事故原因】

- ・事故を起こしたコンクリートポンプ車は形式が古く、一部の油圧ホースが安全弁を経由しない構造であったため、油圧が抜けた際にブームが落下した。
- ・コンクリートポンプ車の点検・整備は実施されていたが、点検時に油圧ホースの劣化を把握していなかった。
- ・被災者は、コンクリートの締固め作業を行っていたが、ポンプ車のブームに対して注意不足であった。

【改善対策】

- ・全ての油圧ホースが安全弁を経由するコンクリートポンプ車を使用する。
- ・コンクリートポンプ車、油圧ホース、安全弁の点検項目を付け加えた作業前点検表を作成し、点検を徹底する。また、機械を安全に作動させる重要部品について、使用年数を確認すると共に、異音などの変化が見られた場合には、早期に部品交換または修理を行う。
- ・コンクリートポンプ車の圧送作業手順に合わせた安全確認チェックリストを作成し、作業をチェックする。またK Y ミーティングでの安全確認や、現場代理人の監視などを徹底する。

事故発生箇所の状況



【分類】 コンクリート打設 その他

【被害状況】 業者人身 1名 骨折多数、肺刺傷 3ヶ月以上の加療、リハビリ